



留学 分かり難育成の最適解 世界に出て 純鷹を高め コミニケーション力を育てる3ヶ月留学

グローバル人財育成の最適解。世界に出会う経験を高校生から

城北

〔東京都板橋区・里子校〕

この学校の
情報は



自主 友達もたくさんできました。

海外留学へのニーズの高まることも、2018年度から公留学制度を開始した同アメリカ、カナダ、オーストリア、ニュージーランドの国から留学先を選ぶこと、学ぶ現地校も公立・私立・男子校・共学校など多彩。それもホームステイをしながら留学は希望者全員ができるわけではなく、「高約10名」と規定を設けた制になっています。希望の確認、志願書の審査、英語の確認、校長面接の3つ格した生徒のみが参加で決まりです。

ら3月までの期間を海外で過ごしますが、その間の日本での学習への補講は原則行いません。留学前や帰国後の春休みを利用して自力で追いつくことを意識に過ごしたいという強い意志のある生徒でなければ留学は認めない方針です」と、国際教育委員会委員長の紫藤潤一先生は話します。

いますが、留学中は同校の教員が生徒に直接連絡をとるのでなく、代理店の担当者を通して生活状況を把握し、見守るとうにしているそうです。

3ヶ月間で伸ばしてほしい力は、『ミニユニケーション』の基礎力だと紫藤先生。困ったことがあれば、現地校の教員や生徒、ホストファミリー、代理店の担当者に自分の気持ちを伝え、改善する『ミニユニケーション』力を養つことも、ホーム留学の大きな目的です。

「本校の生徒はまじめなのでそれが、海外に出ればそれが『シャイ』に映ることも。ですから積極的に、英語を使った『ミニケーション』空間に飛び込んでほしいですね。

値観に触れ、自分の意見を主張しなければ話が始まらない。そんな経験を高校生のうちに持つことにホーム留学の価値があると思います。留学での成果でしょう。

帰国後、保護者を集めた報告会では参加した生徒それぞれが、自分の経験をしつかりと自身の言葉で語っていました。学習意欲も高まり、精神的にも大きく成長したと思います」

今後もホーム留学を継続して実施し、将来的にはより長期の留学制度や海外大学への進学をめざすコースの設置なども視野に入れているとのことです。世界に通用する人財育成に向けて着実に環境を整えつつある同校。ホーム留学1期生が今後、どのような成長を遂げるかが楽しみです。



昨年度ターム留学に参加した高2生の4名。
右から古澤剛くん、徳野隼人くん、山村秋穂くん、東光健くん。

辞書に興味を示してくれたことが、仲のいい友達ができるきっかけになりました。授業中もわからぬところは「今のはどういう意味?」と教えてもらつたり。僕はカナダに留学したのですが、宗教の授業があり、映画を宗教的に読み解くという取り組みが面白かったです。

東光健くん●僕はオーストラリアのゴールドコーストに留学しました。放課後に教会で子どももと遊びアクティビティに参加したのが印象に残っています。ホームステイ先では香港からの留学生がルームメートだったので休日に一緒に買物に行くなど仲良くなりました。



中1～高1の「イングリッシュ・シャワー」での一コマ。ネイティブ教員と日常的に会話をすることで、日ごろの生活の中で英語を使う機会を増やしています。

山村くん・実用英語の大切さを実感し、もっと英語を学びたくなり、英検準1級取得に向けて勉強をしています。留学でリスニング力もアップしました。

Q ターム留学で自分が成長した点を教えてください。

東光くん・英語力だけでなく、家事を手伝う、知らないところに一人で行ってみるといった「生活力」がついたと思います。

山村くん・留学中は学校の勉強よりも朝食を取るアクティブライフな生活だったので、戻つてからも朝型をキープするようになりました。

強、ホストファミリーとの外出などやることがたくさんあったので、ものごとの優先順位を付はられるようになりました。

徳野くん ● ミュニケーションで、ものごとの優先順位を付はれるようになりました。

取るための英語を学べたことです。英語表現の授業でプレゼンをした時にネイティヴの先生やクラスメートから発音をほめられるのがうれしかったです。

古澤くん ● 積極的に話しかけるわからぬことは聞き返す、とかつたことは確かめるように返答と、相手の言葉を引き出せるという純粋なコミュニケーションを学びます。

語学留学や学校内での英語漬けプログラム

ターム留学以外のプログラムはいくつかあり、グローバル人財育成に向けて改善を重ねています。中3・高1希望者対象の15日間の「オーストラリア語学研修」は、現地校で体験授業をしてオーストラリアの生徒と交流するなど国際交流の中からコミュニケーション力を伸ばせるよう内容を改善しています。毎学期の期末試験後の3日間を利用し英語だけを使って過ごす国内留学「イングリッシュ・シャワー」、ネイティブ教員と昼食を共にする「インターナショナルランチ」など、日常的に英語を使うプログラムも人気です。



オーストラリア語学研修では、中3生が現地の小学校を訪問し交流を深めます。

海岸に留学しました。コンピュータを使って絵を描くアートの授業がとても興味深かったです。英語は聞き取れたのですが、自分からはなかなか話しかけられず。でも周りの生徒がどんどん話題を振ってくれて、友達ができるからには積極的に話せるようになりました。

古澤剛くん●僕が留学した「アーランド」は野外活動が盛んで、現地校が海に近いこともあります。立ってボードをこぐペドル・ボーディングを体験しました。現地のプレゼンテーションの授業では剣道について発表をして優秀賞をもらいました。空手や柔道に比べて知名度が低いので、剣道を知つてもらえて良かったです。

山村秋穂くん●持つて行った電子

Q ホストファミリーとの生活

中1
話力

A photograph showing five individuals in a classroom. On the left, a woman with long blonde hair, wearing a black dress with a white floral pattern, looks towards the right. Next to her are four young men in white short-sleeved shirts and dark trousers, all wearing glasses. The man second from the left has his hands clasped; the man third from the left has his hands in his pockets; the man fourth from the left holds a red balloon; and the man on the far right has his hands on his hips. They are standing in front of rows of wooden desks and chairs. In the background, there are windows and a chalkboard.

山村くん・実用英語の大切さを実感し、もっと英語を学びたくなり、英検準1級取得に向けて勉強をしています。留学でリスニング力もアップしました。

東光くん・英語力だけなく、家事を手伝う、知らないところに一人で行ってみるといった「生活力」がついたと思います。

徳野くん・アメリカでは朝6時に朝食を取るアクティブな生活だったので、戻ってからも朝型をキープするようになりました。

強、ホストファミリーとの外出などやることがたくさんあったので、ものごとの優先順位を付はられるようになりました。

徳野くん ● ミュニケーションで、ものごとの優先順位を付はれるようになりました。

取るための英語を学べたことです。英語表現の授業でプレゼンをした時にネイティヴの先生やクラスメートから発音をほめられるのがうれしかったです。

古澤くん ● 積極的に話しかけるわからぬことは聞き返す、とかつたことは確かめるように返答と、相手の言葉を引き出せるという純粋なコミュニケーションを学びます。